

コミュニティFMによる防災情報に関するシンポジウム

実施報告書

弘前大学震災研究交流会が定期的実施している交流会の一環として「コミュニティFMに防災情報に関するシンポジウム」が平成26年2月11日の午後、弘前市土手町にある土手町コミュニティパークにおいて開催された。参加者は約50名であった。

主催者の代表として檜楨貢氏から挨拶があった後に、柴田実氏から基調講演が行われた。柴田氏は講演の概要をまとめられてから、詳細な内容の講演に移られた。概要は、情報を共有することで災害を軽減できること、情報を受ける市民の状況が変化してきたこと、マスメディアの信頼が低下してきたこと、自治体の対応が大きく変化してきたことである。特に校舎の3つについては、東日本大震災以降に表れた特徴であると述べられた。

ついで、コミュニティFM 2社から各社の状況を話していただいた。2社の比較からコミュニティFMの状況が理解できるように、予め講演内容を指定させて頂いた。その内容は、会社の規模（可聴範囲や職員数）、経営体制（自治体からの援助）、自治体との連携形態（通常時と災害時）、実際の災害時の対応である。ビーエフエムは第3セクターである一方、アップルウェーブは完全民間会社であるなどの相違点をはっきり分かると共に、両社とも地域の活性化、地域との情報共有などを目指している類似点があることが理解できた。ご両人の講演を通じてコミュニティFMの形態が多様であることが理解できた。

基調講演をされた柴田氏とコミュニティFMを代表された塚原氏、波多野氏を交えてパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションで話し合われた内容は、コミュニティFMの形態、ニュースソースの確保と情報の裏付け、災害対応などである。特に、情報の棲み分けとして、コミュニティFMに期待がかかっているのは、報道ではなく情報提供であるとの指摘が興味深かった。また、情報の信頼性として情報提供者との顔が見える関係を築いているとの報告があった。最後に、今後の方向を語って頂き、パネルディスカッションを閉じた。

（文責： 片岡俊一）

概要

日時： 平成26年（2014年）2月11日、14:30～17:00

場所： 土手町コミュニティパーク、多目的ホール（弘前市土手町31）

主催： 弘前大学震災研究交流会

後援： 弘前市、弘前地区消防事務組合、青森県、
FMアップルウェーブ、コミュニティラジオ局 BeFM、NHK 青森放送局、
自然災害研究協議会東北地区部会、日本自然災害学会東北支部

参加費： 無料

内容：（総合司会 小田桐睦弥）

○主催者挨拶 檜楨 貢（弘前大学震災研究交流会代表） 14:30～14:35

○基調講演 柴田 実 氏（元NHK解説委員・放送文化研究所主任研究員） 14:35～15:15
「災害時とメディア」

休憩（10分）

○コミュニティFMからの報告：各20分

塚原 隆市 氏（ビーエフエム代表取締役専務・放送局長） 15:25～15:45

波多野 厚緑 氏（アップルウェーブ取締役） 15:45～16:05

○パネルディスカッション（コーディネータ：片岡俊一） 16:10～17:00

パネリストは基調講演の柴田氏と塚原氏，波多野氏
連絡先： 弘前大学大学院理工学研究科 片岡俊一

写真



写真 1 主催者挨拶



写真 2 柴田氏による基調講演



写真 3 塚原氏による報告



写真 4 波多野氏による報告



写真 5 パネルディスカッションの状況



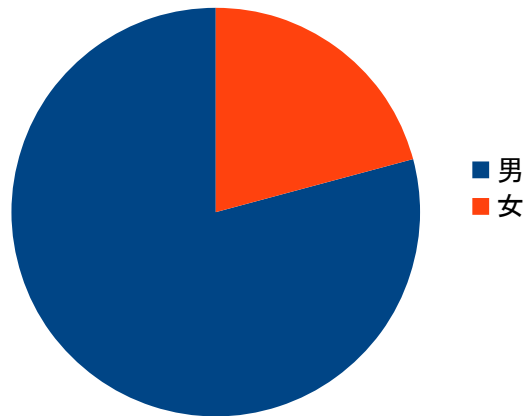
写真 6 パネルディスカッションの状況

アンケート回答結果

会場でアンケートを行ったところ、聴衆のうち25名から回答を頂いた。その内容を以下にまとめる。

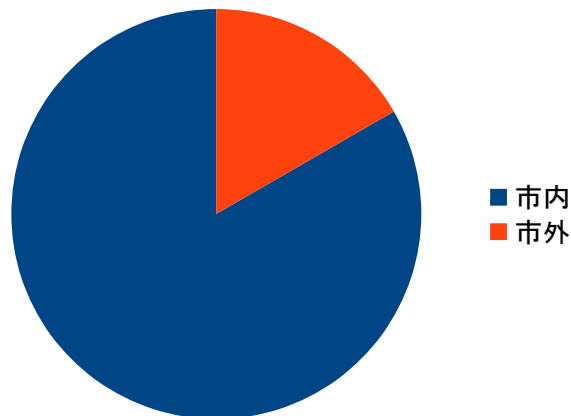
1. 男女比

会場を見た限りでも男性が多かったが、アンケート結果では図のように男性が圧倒的に多かった。



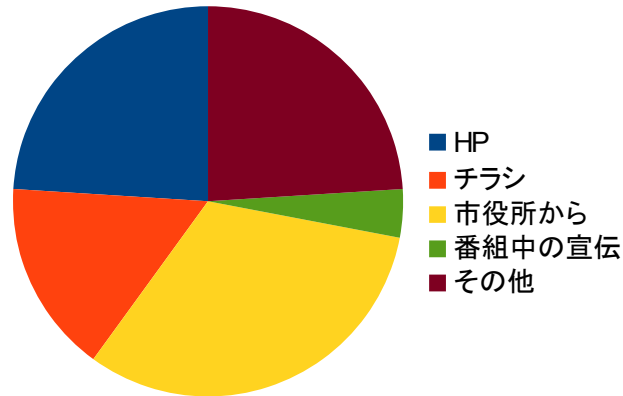
2. お住まい

弘前市在住の方が多かったが、青森市やむつ市から参加された方もいらした。



3. 開催を知ったメディア

開催を知ったメディアは様々であるが、市役所から防災マイスター育成講座修了者の方々へ送られた案内によるものが多くを占める。その他の項目には口コミや直接の連絡などが含まれていると思われる。



自由記述

- 配布資料と放映画像プラス説明と進められ納得度が高く受け止められた。
- 地域の為に働いてくれる人材を求めている、育てている事実。塚原氏が語る部分が印象的でした。
- 報道と情報との違いを二つに分けて説明頂いて情報は地域に大きく貢献している。
- 柴田先生の説明が理解し易く良かったです。例題を提供し、正統なテーマの答えを受け止められる解説をありがとうございます。NHKさんの語りに誠実さを改めて感想として受け止めました。
- 地域住民の顔が見える放送である点が信頼の基本であると確認できました。
- もう少し踏み込んだ内容も聞きたかったです。
- お話頂いた3名の方もよくまとまっていた。パネルディスカッションは疑問に思っていたことが明らかになった。